

## 新鮮胚移植と凍結融解胚移植は どう違いますか

A

採卵した胚をそのまま移植する新鮮胚移植と、凍結した胚を融解して移植する凍結融解胚移植の妊娠・出生の予後を比較した研究では、累積出生率は変わらないと報告されています。以前は新鮮胚移植が主流でしたが、胚の凍結保存技術の向上、単一胚移植の普及などから凍結融解胚移植の割合が増えてきています。

### 新鮮胚移植

新鮮胚移植とは採卵、体外受精後に培養した分割期胚や胚盤胞を移植する胚移植法で、採卵から数日後(3~5日程度)に行われます。採卵前に子宮内膜厚が薄い場合、多数の卵胞発育があり新鮮胚移植後にOHSSのリスクが高いと判断される場合などに全胚凍結を行うことが検討されます。一方で妊娠までの期間短縮や費用面から新鮮胚移植が選択されることもあります。

### 凍結融解胚移植

凍結融解胚移植とは採卵、体外受精後に培養して育てた胚を液体窒素などによって凍結保存し、別の周期に融解して胚移植をすることです。卵巣刺激に対する卵巣の反応性が高い患者さん(high responder)は子宮内膜受容能(妊娠のしやすさ)の低下が起こりやすいため、全胚凍結法による凍結融解胚移植を行います。また卵巣過剰刺激症候群(ovarian hyperstimulation syndrome:OHSS)の発生リスクが高い患者さんに対してもOHSSの予防に有効な治療法と考えられています。

#### 【参照生殖医療ガイドライン CQ】

CQ25：新鮮胚移植の有効性は？

CQ26：凍結融解胚移植の効果・安全性は？ 凍結融解胚移植は新鮮胚移植と比較して有効か？